

第 10 回 西日本インカレ（合同研究会）専用企画シート

必ず「企画シート作成上の注意」をご確認いただき、ご記入をお願いいたします。

大学名（フリガナ）	学部名（フリガナ）	所属ゼミナール名（フリガナ）
キンキダイガク	ソウゴウシャカイガクブ	フジタゼミ
近畿大学	総合社会学部	藤田ゼミ

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数（代表者含む）
エコパフュ	リョウ ヨシミツ	7
エコパフュ	漁 吉洸	

研究テーマ（発表タイトル）

きんだい（近大×近代）学園祭を追え！

1. 研究概要（目的・狙いなど）

今年度の近畿大学の学園祭ではキャッシュレス学園祭をテーマにし、日本の大学で初めてコード決済が導入された。約 170 軒全ての屋台で現金に加え LINE pay、メルペイでの支払いが可能になった。そこで、今回の学園祭を通してキャッシュレスについて実態調査をおこない、キャッシュレスの未来のありかたについて考える。

2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

経済産業省によると、各国のキャッシュレス決済比率において韓国は 89.1%と最も進んでいる。キャッシュレス化が進展している国では軒並み 40～60%台に到達する中、日本はわずか 18.4%にとどまり、キャッシュレス化が進んでいるとはいえない。韓国との差は約 5 倍にも及ぶ。（図 1 参照）

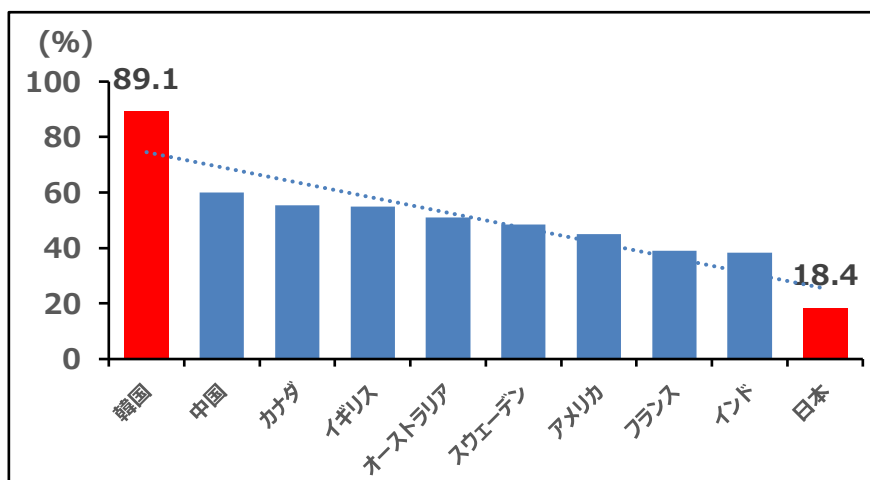


図 1：各国のキャッシュレス決済比率（2015 年）⁽¹⁾

理由の一つとして現金を好む国民性が大きく影響していると考えられる。日本政府は現在キャッシュレス決済の推進に力を入れており、その理由の一つとして東京 2020 オリンピック・パラリンピックの開催が挙げられる。政府は訪日外国人の消費を促すために自国で使い慣れたキャッシュレスの環境を整備している。また、少子高齢化や人口減少が進む日本ではキャッシュレス化によって

事務効率を無人化や省力化により高める目的もある。他にも支払データの活用による消費の利便性向上、消費の活性化など国の経済強化につながる様々なメリットが期待されている。⁽¹⁾

3. 研究テーマの課題

平成 30 年 12 月 19 日～平成 31 年 1 月 10 日に近畿大学経営学部大輔准教授によるキャッシュレス決済の利用実態の調査が行われた。この調査は近畿大学経営学部 1 年生 597 名（男性 407 名/女性 190 名）を対象に行われた。「キャッシュレス決済の認知・利用状況」ではキャッシュレス決済は認知度の高さに反して利用度は低かった。「金額別キャッシュレス利用意向」では大学生はキャッシュレス決済を主に高額なものを購入するときに使用する傾向が高かった。100 円未満で利用すると回答した学生は 9.9%と極めて少数であり、500 円未満の利用範囲でても 22.8%と決して高い数字ではない。一般的にキャッシュレス決済のメリットとしてコインレスが挙げられることが多いが、学生は紙幣を持ち歩かなくてもいいというビルレスの意識が強いといえる。⁽²⁾（図 2 参照）

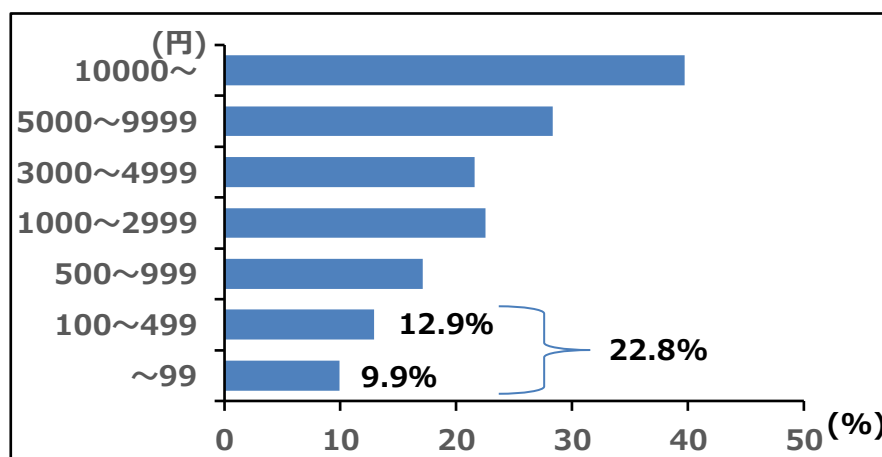


図 2：金額別キャッシュレス利用意向（複数回答）（2018 年）⁽²⁾

この研究結果を踏まえて考えると、単価の低い決済がおこなわれる学園祭でキャッシュレス決済が導入されることに疑問を抱く。キャッシュレス決済利用者が多くはないと結論づけることは容易にもかかわらず、なぜキャッシュレス学園祭を開催しようと考えたのか。学園祭の関係者（近畿大学大学祭実行委員会、近畿大学総務部、コード決済企業 LINE Pay・メルペイ担当者）への聞き取り調査によって意図を明らかにする。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

学園祭の関係者（近畿大学大学祭実行委員会、近畿大学総務部、コード決済企業 LINE Pay・メルペイ担当者）に聞き取り調査を行った結果、LINE Pay・メルペイ双方ともに売り上げや利用率に対して明確な達成目標はないということがわかった。私達はキャッシュレス決済の普及が大きな目的だと考えていたため、この事実には驚いた。近畿大学総務部もキャッシュレスの普及が目的ではなかった。キャッシュレスに早い段階から触れることで、自身の考えを生み出す学びの場になることが狙いである。学園祭でキャッシュレスに触れて感じる、考えることは人それぞれであり、良いと感じる人もいれば悪いと感じる人もいる。キャッシュレスは便利なツールである一方で煩わしさを感じる人もいるだろう。政府が国をあげてキャッシュレス化を推進しているが、すべての人に受け入れられるものでは決していない。学園祭がそのことに気づききっかけの場として役割を果たすことを近畿大学総務部は望んでいる。

私達は今後、学園祭を若者に向けて未来の教育の場として捉えるという考えを持った。学園祭では、毎年大勢の来場者が訪れるため、教育の場としての役割は大きいと考える。近畿大学を例にとると今年度は 10 万人もの来場者が訪れた。一つのイベントでこれほど人数が集まりキャッシュレスについて触れることのできるイベントは少ない。キャッシュレスの認知を広める最初の第一歩として大きな役割を持つといえるだろう。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

2019 年 11 月 2 日～11 月 4 日に開催された、キャッシュレス学園祭に関わる人たちに聞き取り調査・アンケート調査を実施した。以下の 5 つの視点から調査を行った。

① 近畿大学大学祭実行委員会

- ② 近畿大学総務部
- ③ コード決済企業 LINE Pay・メルペイ担当者
- ④ 出店屋台 50 軒
- ⑤ 来場した 10 代～70 代の男女 300 人（男性：157 名、女性：143 名）

6. 結果や今後の取り組み

近畿大学の学園祭には、11 月 2 日～4 日の 3 日間で 10 万人を超える来場者が訪れた。今回 300 名を対象にキャッシュレス使用状況についてアンケート調査を行った。キャッシュレス学園祭というテーマを知っていると答えた人は 122 名、知らないと答えた人は 178 名と知らない人の方が多かった。今回大きな取り組みとしてキャッシュレス学園祭を打ち立てていたが、知っている人は半数に満たなかった。また、実際に屋台でキャッシュレス決済を使用した人は、15 名に対し、使用しなかった人は 285 名とたった 5%の人しか利用しなかった。よって単純計算で使用者数を示すと、5000 名の人が使用したことになる。

普段からキャッシュレス決済を使用している人の割合は 10 代男性で 42 人中 16 人（約 38%）が「使用している」と答え、最も多いが、学園祭でキャッシュレス決済を使用した人の割合は 46 人中 7 人（約 13%）と 10 代女性が最も多かった(図 3、図 4 参照)。

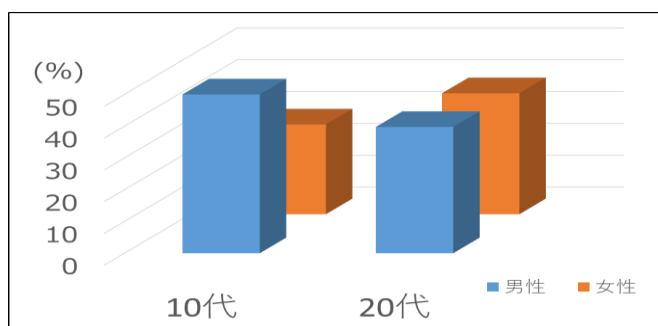


図 3: 普段からキャッシュレス決済を使用している人の割合

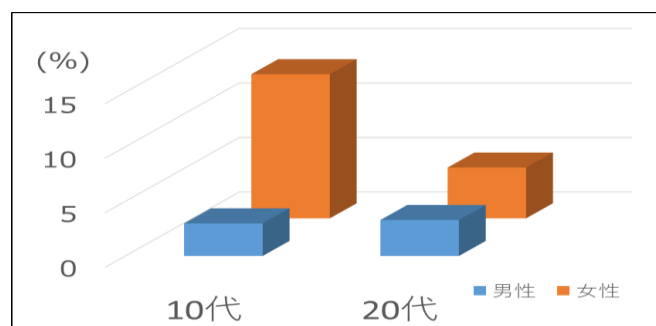


図 4: 学園祭でキャッシュレス決済を使用した人の割合

キャッシュレス決済を利用した人はとても少ないことがアンケート調査よりわかった。使用しなかった理由として該当するキャッシュレス方法を登録していないからという人が多数いた。だが、他の種類のキャッシュレス決済を利用しているという人は多くいたため、キャッシュレス決済の種類を多くすれば利用者が増加したのではないかと予測できる。

今後の取り組みとして全国の学園祭でキャッシュレス決済の導入を提案する。学園祭には非常に多くの人々が来場する。上記の課題解決策で示した通り学園祭でキャッシュレス決済を導入することで教育効果が期待される。若者が多く集まる学園祭でこのような取り組みを行うことによりキャッシュレス決済の理解が深まり、普及する可能性を秘めていると我々は考える。

今回我々はキャッシュレスだけに焦点を当てて考察してきたが、キャッシュレスだけにいえることではない。多様な選択肢のある社会の中で適した正しい選択を自らしていかなければならない。

7. 参考文献

- 1) 経済産業省 キャッシュレスビジョン

入手先 URL: <https://www.meti.go.jp/press/2018/04/20180411001/20180411001-1.pdf/>
(アクセス日: 2019-10-21)

- 2) 近畿大学経営学部 頼大輔准教授 大学生のキャッシュレス決済利用実態を調査 入手先 URL:

file:///C:/Users/karat/AppData/Local/Packages/Microsoft.MicrosoftEdge_8wekyb3d8bbwe/TempState/Downloads/1_8_6_0_186003%20(1).pdf/(アクセス日: 2019-10-24)

● パワーポイント内に動画を使用されている場合、動画を使用しているスライドのページをご記入ください。

●発表時に使用する成果物（例．商品化した●●、店舗で配布したパンフレット、調査に使用したアンケート）

【企画シート作成上の注意】※「第10回 西日本インカレ（合同研究会）大会参加要項」も合わせてご確認のうえ、企画シートの作成を行ってください。

- ・本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、審査を行っていただく大学教員・企業の方々に事前にお渡しいたします。
- ・本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1チーム・1点提出してください。また、翌年3月に公開予定の「日経ビジネス電子版」にリンクされた特設サイトに掲載されます。
- ・本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1～7以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。
- ・本企画シートは、作成上の注意を含め、4ページ以内に収めてください。事務局から審査員に渡す際は、A4サイズでプリントし、4ページ目までをお渡しします。
- ・大会参加申込み時点から、チーム編成の変更（チームの人数・交代など）は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、西日本インカレ事務局にご連絡ください。事務局より手続きについてご連絡をさせていただきます。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。
- ・商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版權の使用許諾を得てください。日経BP社・日経BPマーケティングは一切の責任を負いません。
- ・書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Webサイト上の資料を利用した場合は、URLとアクセスした日付を明記してください。
- ・発表時に使用する成果物がありましたらご記入ください。記入がない成果物は大会当日使用することができません。また記入いただいた内容について、事務局から代表者の方に確認をさせていただく場合がございます。
- ・電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

↑ここまでを4ページ以内に収めて、提出してください↑